

# 子ども学の ひろば

お便り

POST

## ◇私の「カルチャー・いんふお」◇

寮美千子さんのお話を聴きました。数々の文学賞を受賞したものの静かな方と思いきや、声の通る先生のような方でした。大好きな奈良に移住し、2007～16年の間、奈良少年刑務所(2017年閉所)で受刑者たちに言葉の大切さを語りかけてきました。この少年刑務所の前身は「明治の5大監獄」の一つ奈良監獄で、昔の煉瓦造りの立派な建物を使っていました。暑さ寒さの厳しいことを、ある受刑者がこう書きます。「夏の毎朝のふく風が 気持ちいい」。この詩が、クラスの受刑者の「刑務所はクーラーないから、朝だけだよなあ、気持ちいいのは」とか「刑務所に来てから、風が吹いたってだけで、しあわせを感じるようになりました」など共感を生みます。少年刑務所は主に17～25歳の受刑者を収容していますが、多くの少年たちは虐待を受けたり、困窮家庭で育ったりと生活に恵まれていません。コミュニケーションが苦手で、発達障害などの困難さをもった人もいます。プログラム導入の成果として、「問題児」が変わったという報告も出ています。(寮美千子「あふれでたのはやさしさだった」西日本出版社2018年)『プリズン・サークル』(坂上香監督2020年)という映画は、島根あさひ社会復帰促進センターという官民協働の刑務所での教育の様子を描いたドキュメンタリー作品です。ここではTC(Therapeutic Community 回復共同体)方式を採用し、社会復帰後に周囲とのコミュニケーションが取れ、再犯を防ぎ、幸せに暮らしていくための取り組みがなされています。自分が犯した事件の被害者との対面ロールプレイングでは受刑者の目に涙がありました。奈良でも島根でも、授業には靴を脱いで上がる部屋も使われています。心や体を解放して行うことを目指しているのでしょうか。(AK)

## ◇研究論文を募集します◇

### ピアレビュー(査読)の上、掲載します。

- 【テーマ】 子ども、保育、幼児教育に関するもの。
- 【文字数等】 400字詰め原稿用紙35枚程度(写真・図表、文献、注を含む)。本文はワードで作成。
- 【締め切り】 随時募集します。投稿予定の方は本誌編集委員会まで。

Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

## お茶の水女子大学社会人講座(文科省BP認定) 「保育・子育て支援ラーニングプログラム」 2020年度 後学期(10月開講) 受講生募集

夜間や週末開講のお茶大 ECCELL 社会人プログラムが2020年度後学期の募集を行います。お茶大こども園と大学・大学院が連携し、保育実践者や一般社会人を対象とした学びの場を、10月～下記のとおり開講します。\*男性も受講可能です。



Brush up Program  
for professional

### 【開講科目】

- ・「乳幼児教育論Ⅵ」(1単位、集中講義、12月～1月の週末2～3回に分けて開講予定)  
担当：浜口順子
- ・「保育学演習」(2単位、大学院科目、金曜18:20～19:50) 担当：浜口順子
- ・「からだ・表現ワークショップ」「子育て支援フィールドワーク」(秋季予定、公開型、9月以降募集)

【出願期間】 2020(令和2)年7月16日～22日

【Eメール】 nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jp

詳しくは大学HPをご覧ください。⇒

[http://www.ocha.ac.jp/news/20200206\\_d/fil/20200206\\_1.pdf](http://www.ocha.ac.jp/news/20200206_d/fil/20200206_1.pdf)